



愛情と信頼に満ちた明るく活気のある学校 地域に支えられ子どもたちと保護者に愛される学校

さきばるだより

創立116年 奄美市立崎原小中学校 学校だより 令和6年9月号

令和6年9月30日発行

令和6年度児童生徒会スローガン

切磋琢磨

—ひとりじゃない。
みんな誰かの応援団！—

ホンモノの自己肯定感

崎原小中学校 校長 鑑 謙治

今回の学校だよりは『ホンモノの自己肯定感 井上顕滋著』から引用させていただきます。

学校生活において、「自己肯定感」とは、「ありのままの自分を肯定する感覚」を指します。自己肯定感の高い子どもは物事に積極的に取り組み、失敗しても何度でも挑戦できる傾向があり、一方で自己肯定感の低い子どもは失敗を恐れて新しいことにチャレンジすることを避ける傾向があるとされています。

しかし、「自己肯定感」は高ければいいというものではありません。「ホンモノ」ではない、つまり「ニセモノ」の自己肯定感をもつ子どもがここ数年で増えていると言っています。

ニセモノの自己肯定感というのは、ありのままの自分でよいという「I'm OK」の感覚だけをもっている状態です。ニセモノの自己肯定感をもった子はポジティブで積極的に見えるものの、何か一つでも問題に直面したとたん落ち込みがちになり、諦めてしまうといった特徴があります。

「ホンモノ」の自己肯定感には「I'm OK」の感覚だけでなく、小さなことでも最後まで何かをやり遂げる経験を積み、「自分ができる」という「I can」の感覚を子どもたちにもたせることが必要なのです。この「I can」という感覚を「自己効力感」といいます。つまり、ありのままの自分を肯定してもらった「I'm OK」の感覚と、成功体験から得られる「I can」の自己効力感を併せもって初めて「ホンモノ」の自己肯定感をもつことができるのです。

現在、本校ではこの「ホンモノの自己肯定感」を目指しています。単に褒めるだけではなく、子どもたち一人一人に寄り添い、できる喜びを実感させる取り組みを教職員で共有しながら実践しております。その根幹となるのが学力向上となります。教師に指示されたり、教えられたりするのではなく、子ども一人一人が主体的に学び、自分たちの力で学びを勝ち取っていく。そんな授業を展開しております。また、家庭学習に関してもプリントをやるだけではなく、自分たちが学びたいことを学んでいく姿勢で取り組んでいます。確かに家庭学習を主体的に行うことは難しい子どももいます。しかしながら、現在の家庭学習取り組み状況は、昨年度の家庭学習時間の倍近くとなっています。

これからは、「やらせる学習」ではなく、「児童生徒が自ら進んでやる学習」へと変わっていきます。我々大人もそうですが、自ら進んでやる内容の方がやらされるより効果的だと思います。「宿題やったの？」という言葉で宿題をやる気が失せてしまう子は多いものです。でも、「やったの？」と聞かないといつまでもやらないのも現実です。「鳴かぬなら鳴くまで待とうホトギス」は難しいですが、何とか待てる大人になりたいものです。

運動会へのご協力ありがとうございました

今年の運動会もご協力ありがとうございました。今年も奉仕作業に始まり、翌日のテント撤収まで御協力いただき感謝申し上げます。

今年度の運動会は「あえてそろえない」ことを教職員で共有した運動会でした。行進や服装、参加種目まで児童生徒主体としました。しかし本校の子供たちはしっかり考え、自分たちのできることを羽目を外さず実行してくれました。そういった意味でも最高の運動会になったと思います。

相変わらず、わたし（校長）が台風を呼んでしまいましたが、運動会前日の会場準備にも多くの方々にお集まりいただき、とても心強かったです。これこそ崎原だなあと感じました。



10月の主な行事

- 9日（水）中間テスト（～10日）
- 18日（金）生徒会立会演説会
- 24日（木）小学校陸上記録会（三儀山）
- 27日（日）学習発表会

11月の主な行事

- 1日（金）振替休日
- 6日（水）実力テスト（中3）
- 7日（木）中3学級PTA
- 9日（土）読書祭り 北高吹奏楽部演奏会
- 14日（木）サシバ講演会
- 24日（日）木の伐りだし

